

新型コロナウイルス感染症にかかる 県内の感染動向等について

対象期間 4月17日～4月23日

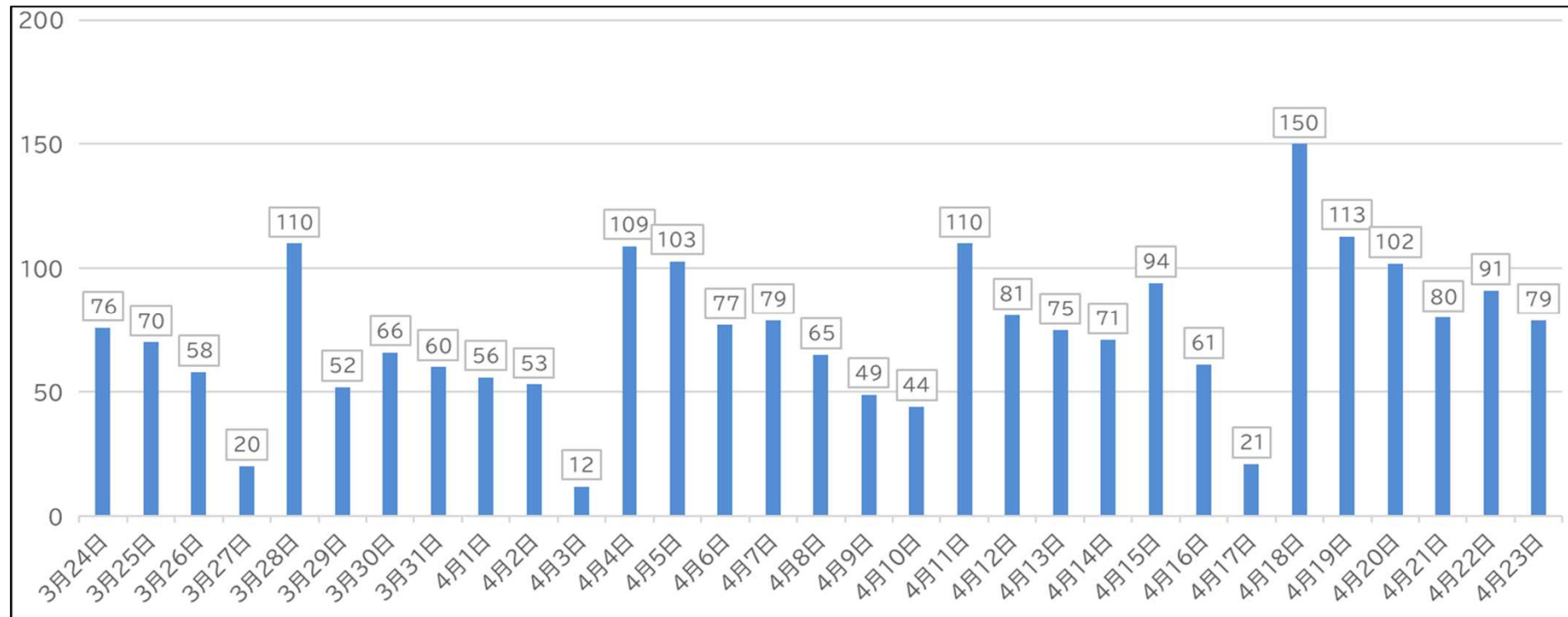
4月25日 健康医療福祉部 健康危機管理課

1、県内の感染状況について

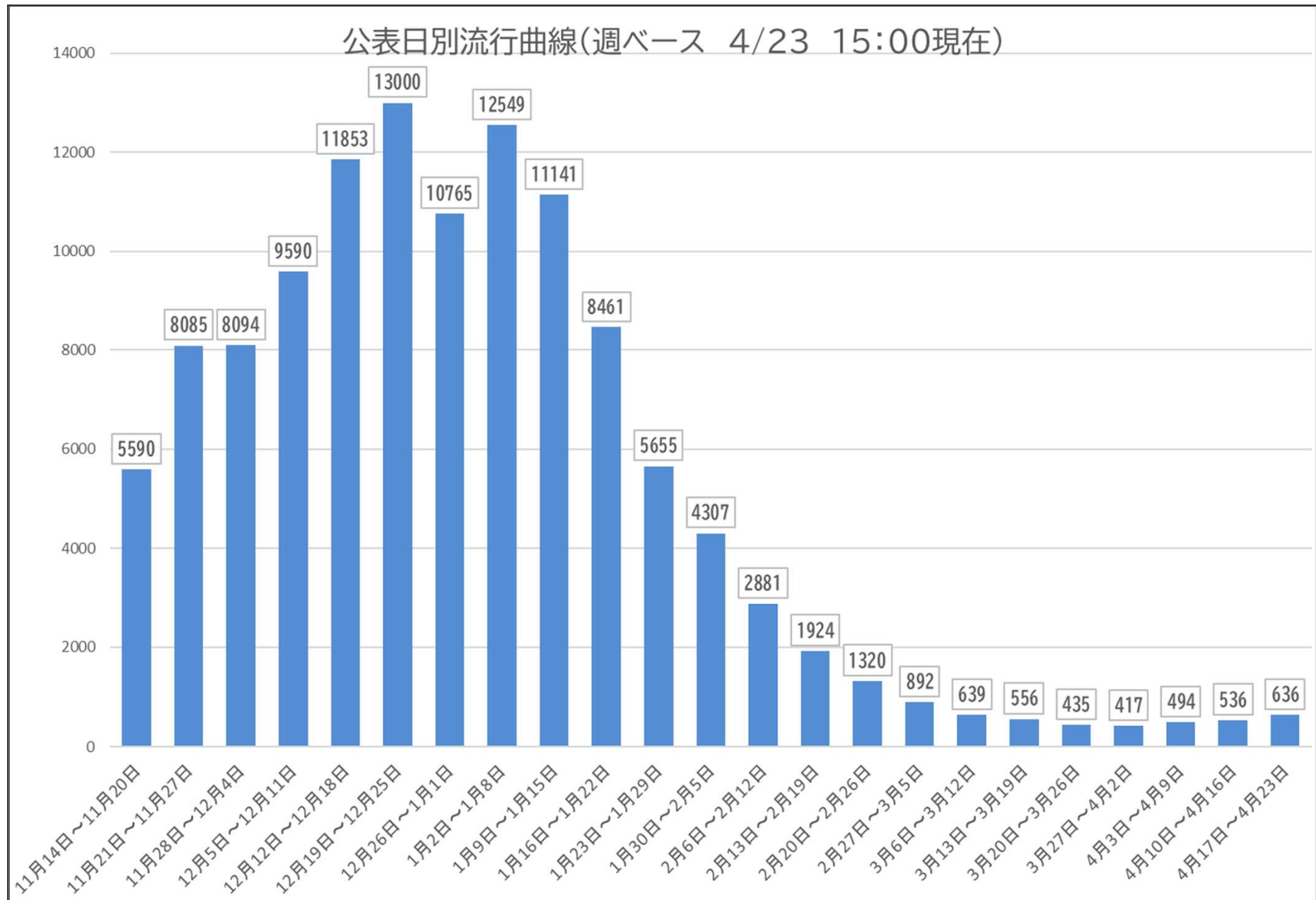
1) 県内の陽性者発生状況

	新規感染者数
今週の報告数(4/17~4/23)	636人
累計(4/23現在)	375,331人

2) ①公表日別感染動向(4/23現在)



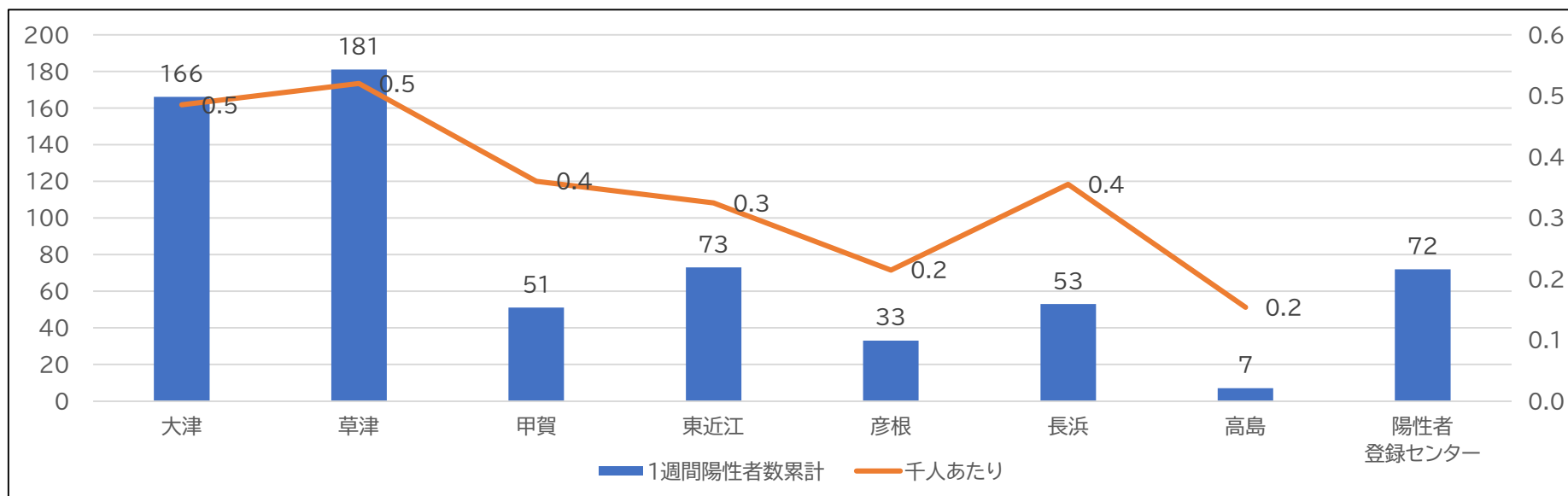
2)②公表週別感染動向(4/23現在)



3)医療圏別の陽性者発生状況(4/23現在)

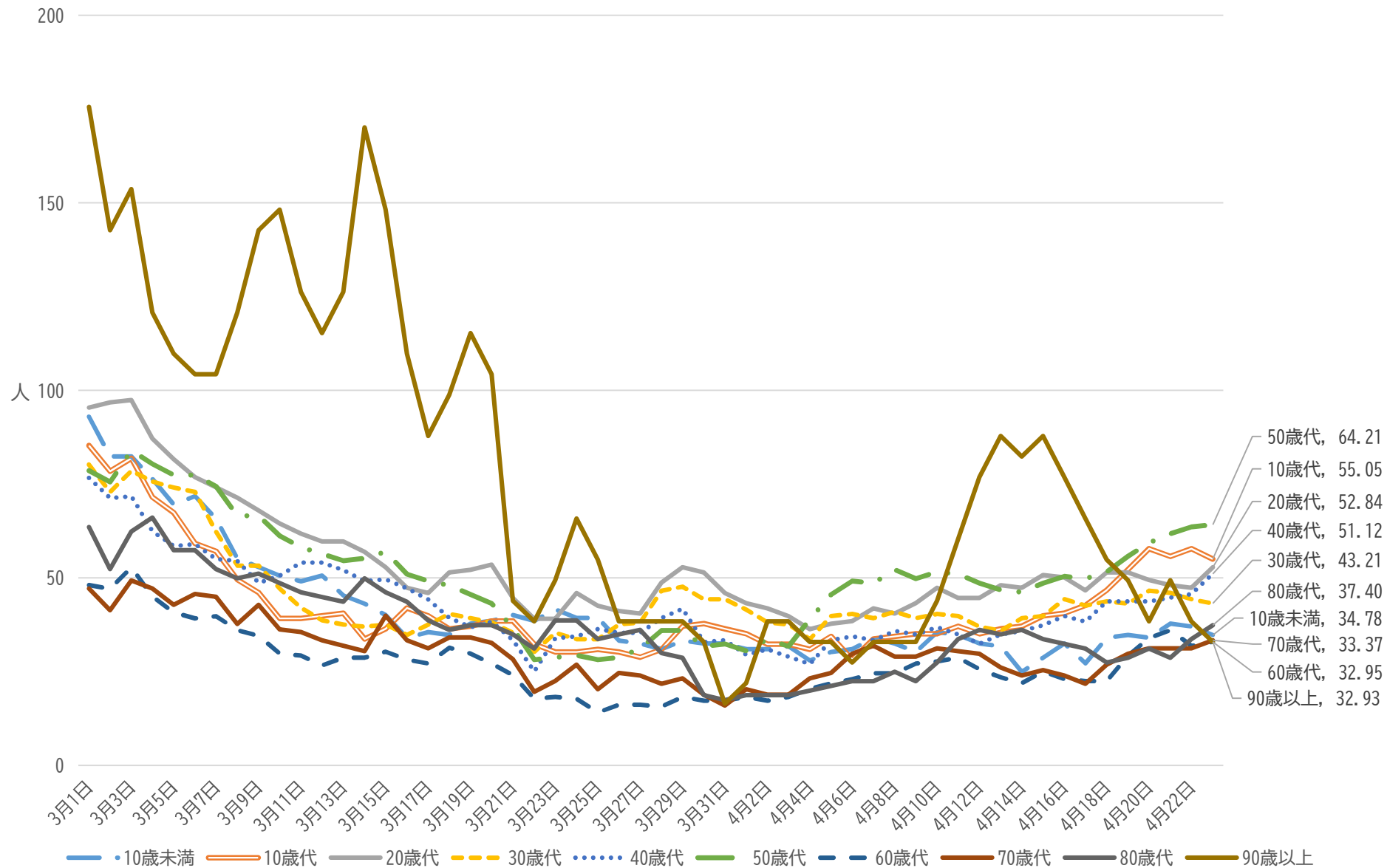
※報告医療機関の所在地別集計であり、実際の患者の居所と一致しない場合があります。

	大津 (大津市)	草津 (草津市・守山市・栗東市・野洲市)	甲賀 (甲賀市・湖南市)	東近江 (東近江市・近江八幡市・日野町・竜王町)	彦根 (彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町)	長浜 (長浜市・米原市)	高島 (高島市)	陽性者 登録センター	合計
4月17日	9	1	2	0	0	3	0	6	21
4月18日	27	52	14	19	6	13	3	16	150
4月19日	41	27	11	13	4	5	1	11	113
4月20日	26	29	6	13	9	12	1	6	102
4月21日	14	30	9	8	3	8	0	8	80
4月22日	25	25	5	7	7	11	0	11	91
4月23日	24	17	4	13	4	1	2	14	79
合計	166	181	51	73	33	53	7	72	636

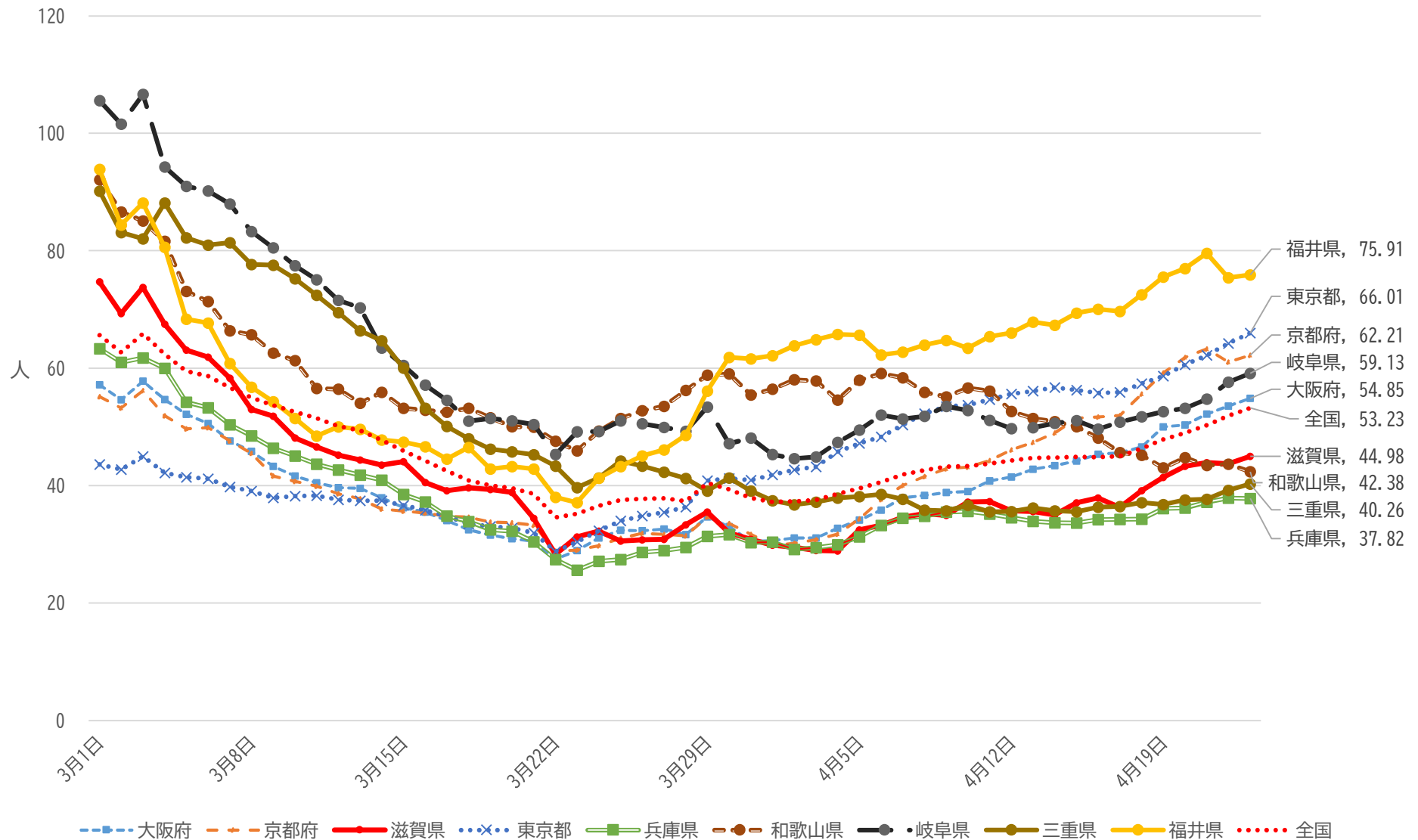


4) 年代別 10万人あたりの新規感染者数推移

(公表日 直近7日間の累計患者数) (R5.3/1-4/23)



5) 近隣府県等の10万人当たりの新規感染者数の推移 (直近7日間の累計患者数) (R5.3/1-4/23)



2、県内の感染状況・各指標の状況について(4/23現在)

1)県内の病床数および宿泊療養施設の状況

病床数	入院者数			空床数
		県内発生	その他	
371	33	32	1	338

宿泊療養 部屋数	療養者数			その他	空数
		県内発生	県外発生		
309	9	9	0	3	297

2)県内の陽性者発生状況

陽性者累計	入院患者 (県内発生)				死亡
		軽症	中等症	重症	
375,331	32	24	8	0	678

重症 :ICUに入室または人工呼吸器・ECMO(体外式膜型人工肺)が必要
 中等症:酸素投与が必要

3)各指標の状況

現時点の確保病床の占有率 ※1	8.9%	
最大確保病床の占有率(レベル判断指標) ※2	6.7%	
うち重症者用病床の最大確保病床の占有率(レベル判断指標) ※3	0.0%	
直近1週間における人口10万人当たりの新規報告数	45.0人	
直近1週間と先週1週間の陽性者数の比較 ※4	多い	
直近1週間のPCR等陽性率 ※5	13.1%	
PCR等検査数	直近1週間の検査数	4,735件
	累計の検査数	1,407,642件

※1 現時点の確保病床の数、371床に対する割合

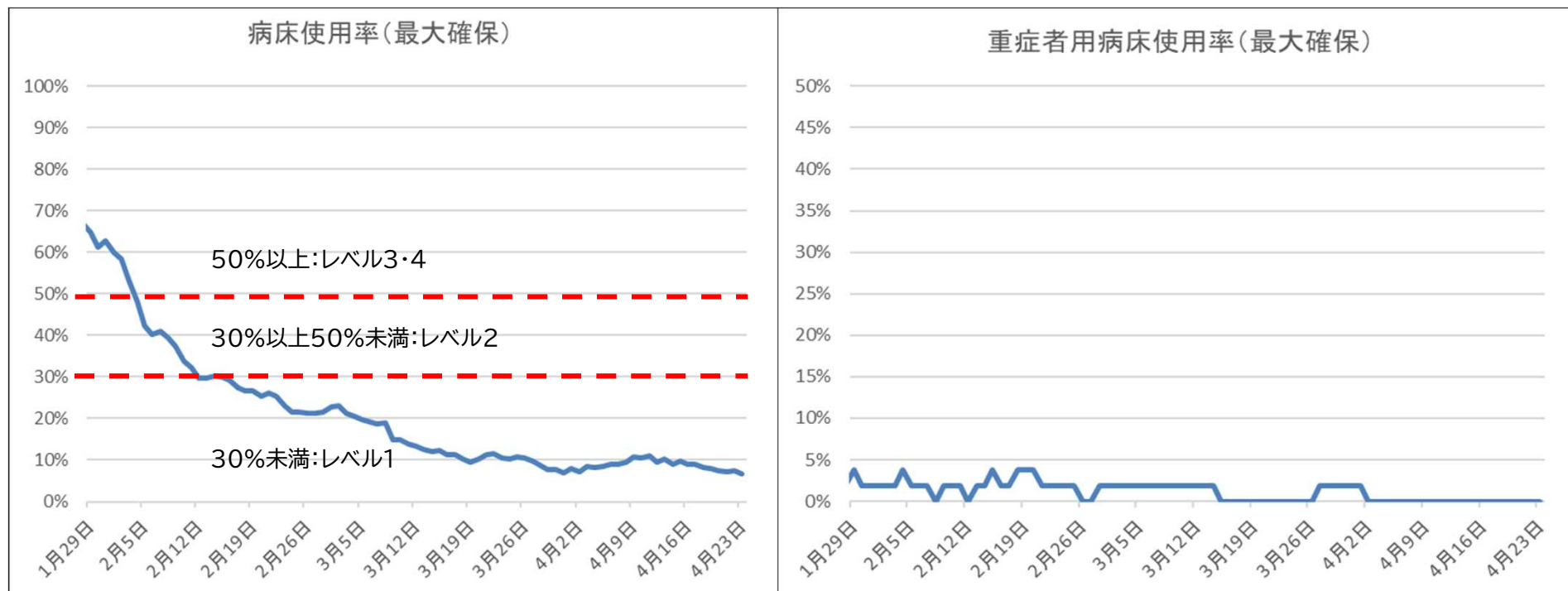
※2 ピーク時に確保予定である病床数、491床に対する割合

※3 ピーク時に確保予定である病床数、52床に対する割合

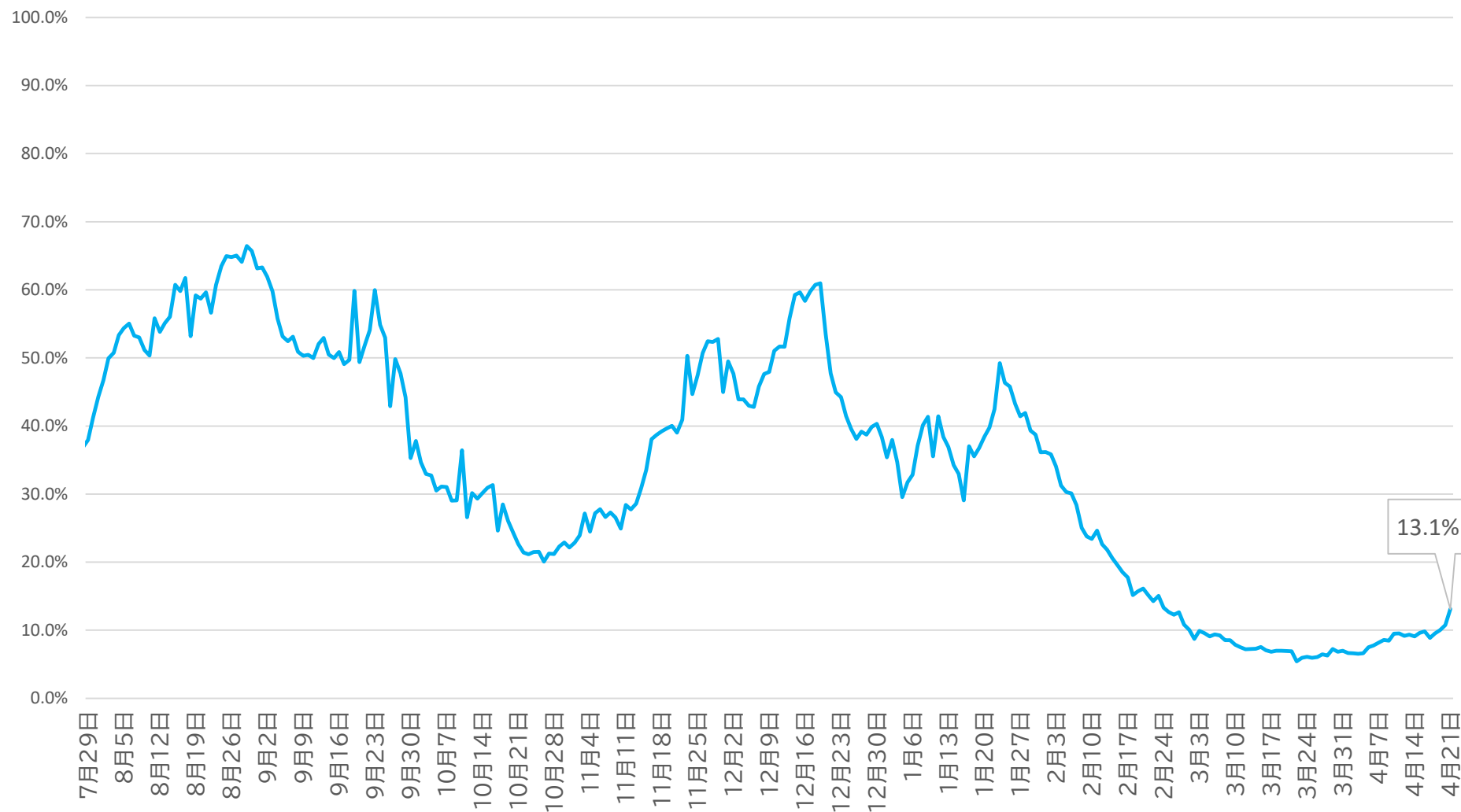
※4 直近一週間の陽性者数が先週一週間に比較し多いか少ないか記載

※5 報告受領件数(抗原検査を含む)に基づく陽性率(自己検査・無料検査は含まない。)

4)各レベル判断指標の推移

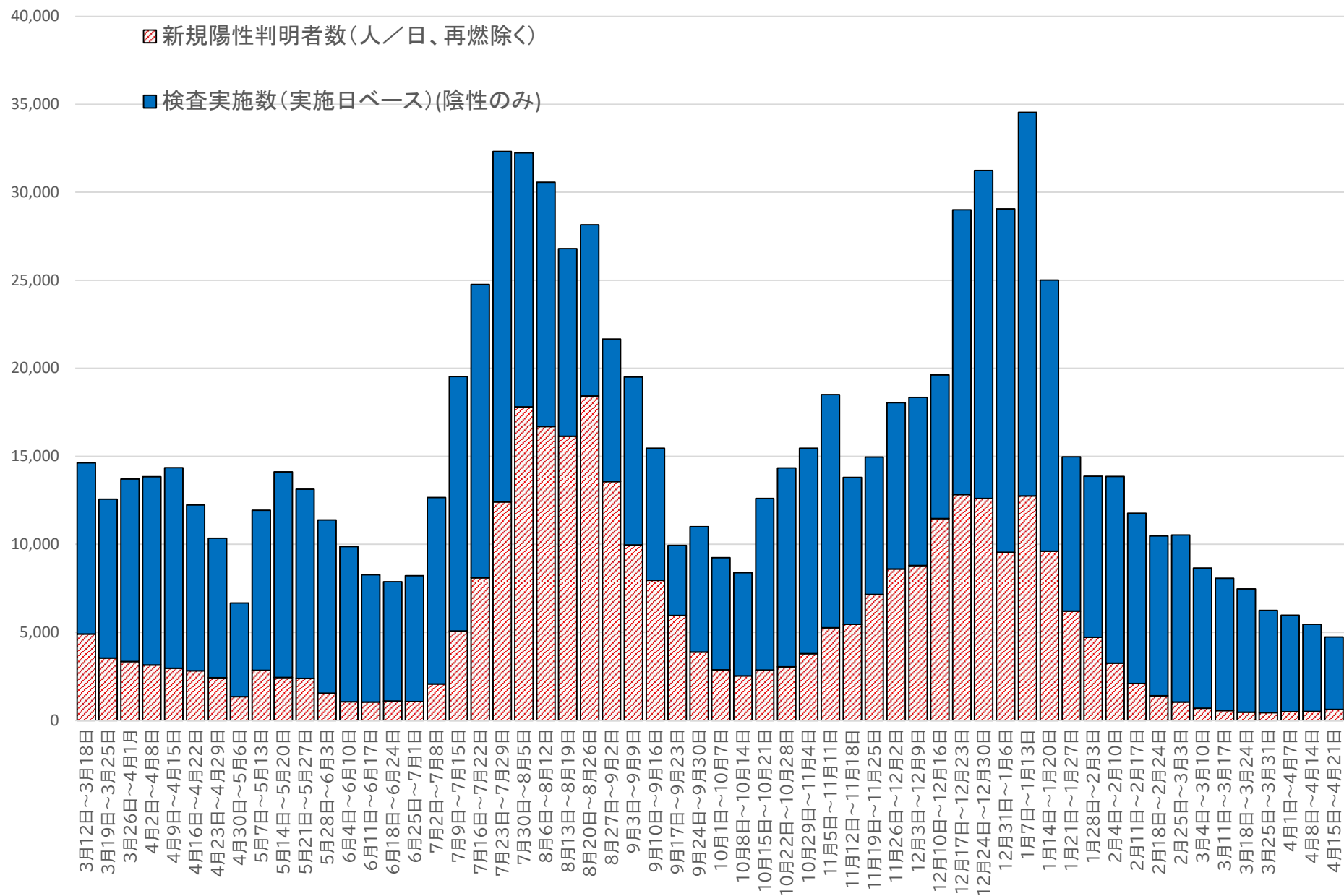


5)陽性率の推移(7日間移動平均)



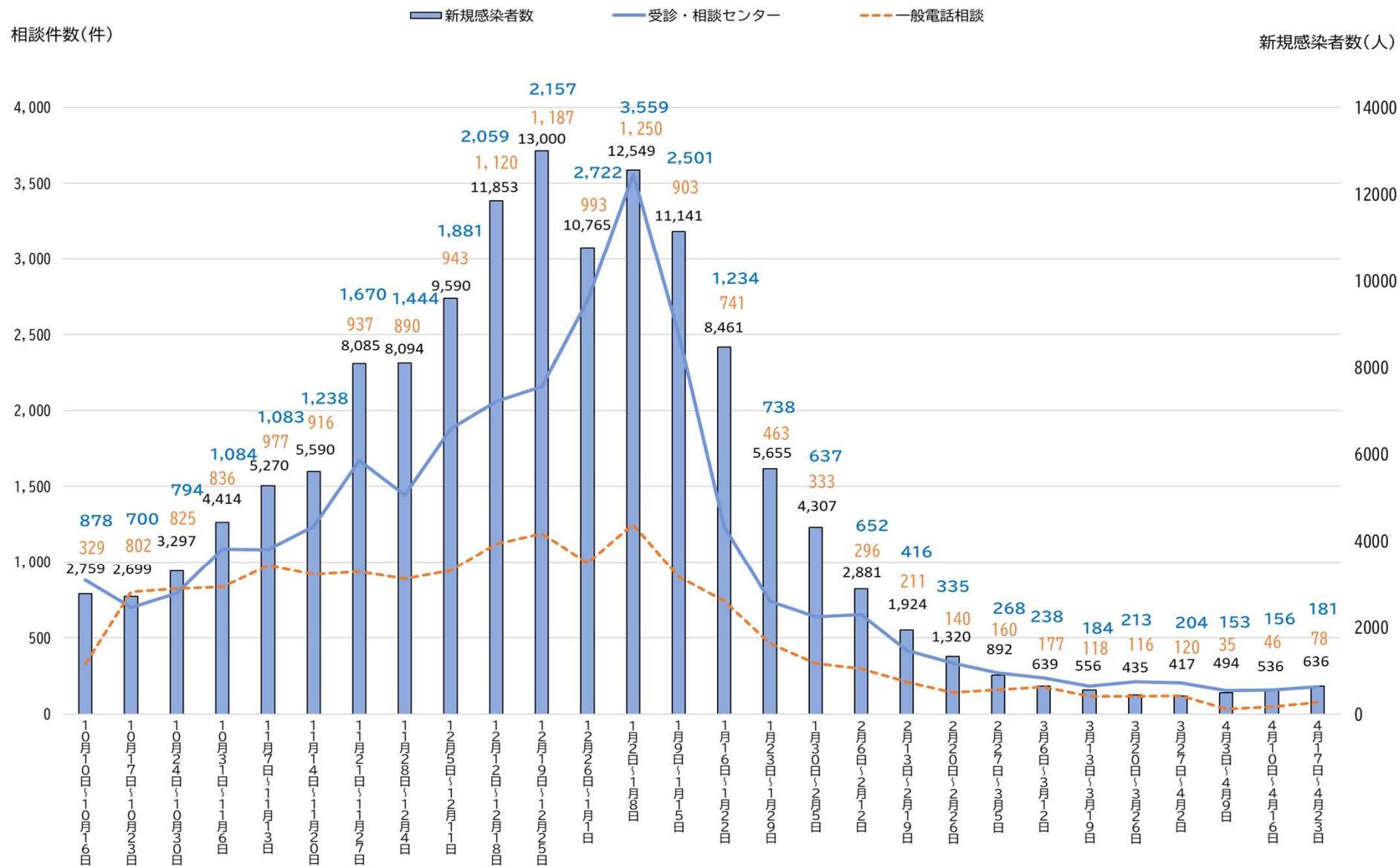
陽性率の7日間の移動平均（その日までの7日間の平均）を見ると、4月21日現在の陽性率は、13.1%でした。※検査実施日ごとの報告件数（抗原検査を含む）に基づく陽性率

6)PCR等検査の状況(陰性確認を除く)



7) 相談体制について

相談件数と新規感染者数(週計)



8)変異株にかかるゲノム解析について

- 世界的には、XBB.1.5系統が検出された亜系統の47.9%を占めている。
- 日本および滋賀県では、引き続きBA.5系統が主流となっているが、日本ではXBB.1.5系統の検出割合が上昇傾向にある。
- XBB.1.5は、重症度については現段階で変化は認められていないが、他のオミクロン株の変異ウイルスより広がりやすいこと、免疫を逃れる性質が強いことが示されている(1月25日WHOリスク評価による)。

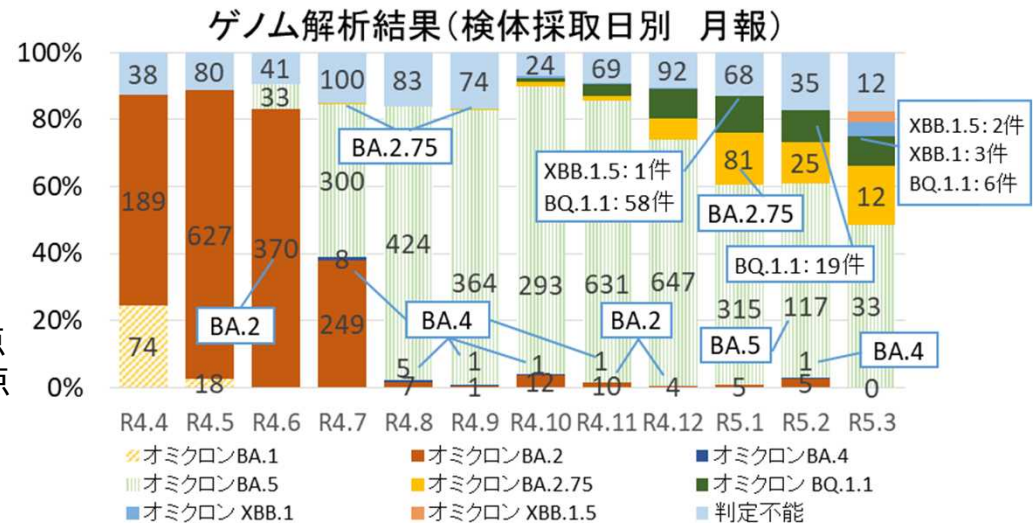
■全国の状況について

感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の変異株について(第27報)
(2023年4月21日 国立感染症研究所)抜粋

- オミクロンの中では多くの亜系統が派生しているが、世界的には XBB.1.5系統が検出された亜系統の47.9%を占めており、次いでXBB系統(17.6%)、XBB.1.9.1系統(7.6%)が多く検出された(WHO, 2023a)。
- いくつかの地域で感染者数増加の優位性がみられる亜系統も報告されているが、特定の変異株が世界的に優勢となる兆候は見られない。一方で、2023年第8週時点で、XBB系統とその亜系統が占める割合は、前週から上昇している(WHO, 2023a)。
- 日本からは、4月10日時点でXBB系統(亜系統を含む)が1,553件登録されており、うちXBB.1.5系統が691件登録されている(covSPECTRUM,2023)。XBB.1.5系統は、2023年第1週は0.13%、第12週には15.6%と検出割合が上昇傾向にある。(国立感染症研究所,2023a、国立感染症研究所,2023c)
- XBB系統、XBB.1.5系統ともに、中和抗体からの逃避能の上昇が示唆されているが、重症度、治療薬の有効性への影響についての明らかな知見はなく、今後の国内外での検出状況、感染者数や重症者数の推移を注視する必要がある。

■滋賀県内の状況について

- 本県では、令和4年4月1日から令和5年4月23日までに7,366件のゲノム解析結果が判明しており、うちBA.5系統が3月時点で47.8%を占め、感染の主流系統となっている。
- 10月以降、BA.2系統やBA.5系統を起源とする亜系統(BA.2.75、BQ.1.1、XBB.1)が増加傾向にある(XBB.1.5:3検体検出(令和5年3月時点))。
- 特に、BA.2.75、BQ.1.1が占める割合は、10月時点でそれぞれ1.5%、1.2%であったのに対して、3月時点で17.4%、8.7%となっている。
- 引き続き、検出状況に注視する必要がある。



評価(4/17~4/23の感染状況)

- 全国の新規陽性者数は、緩やかな増加傾向が見られています(4月23日時点の先週前週比1.19)。
- 本県も同様に、4月23日時点で今週先週比は1.19、直近1週間における人口10万人当たりの新規報告数は45.0人と緩やかに増加しています。過去においては4月から5月にかけて感染者数が増加しているため、今後の動向に注視が必要です。
- 最大確保病床に対する占有率は、4月23日時点で6.7%と、10%を下回っています。重症病床の占有率は0.0%が続いており低い水準で推移しています。
- マスク着用の考え方が見直され、個人の判断に委ねられました。本県では、3月13日から「マスク外してよし！」(原則、マスクを外してよい)として、分かりやすく考え方をご案内しました。手洗い・手指消毒や換気などの基本的な感染対策は継続してお願いします。
- ワクチンの効果は徐々に減弱します。基礎疾患のない12歳以上65歳未満の方等は、オミクロン株対応ワクチン接種(令和4年秋開始接種)は5月7日までとなります。接種していない方は、もう1回のオミクロン株対応ワクチン接種を検討してください。
- 本県の第15週(4/10~4/16)のインフルエンザ定点医療機関当たりの報告数は2.23と5週連続で減少しています。全国的に減少しています。